

保育安全管理について

大阪医科薬科大学病院

バンビ保育室

更新日 2023 年 6 月 10 日

午睡

- ◆給食後、顔・手を清拭の際、食物が口の中に残っていないか確認する。
(最後、お茶を提供する)
- ◆照明は暗くせずに、子どもの顔色・様子の変化に気付ける明度にする。
- ◆0～3 歳、全員仰向け寝とする。寝入りにうつ伏せを好む児や寝返りをした場合
は必ず、仰向けの体勢にする。乳児へうつ伏せ寝を回避する為、寝返り防
止のクッションを利用する際には、腰より下のあたりに配置し口元にかか
らない様にする。
- ◆保育士は、子どもの様子を見渡せる場所に座位し、日誌・連絡帳記入・雑用
をする。
- ◆呼吸・顔色・体位・布団のチェック等の睡眠状態の点検は、基本 0 歳児は 5
分間隔、1 歳児は 10 分間隔とするが、ブレスチェックの時間にかかわらず、
全体へ視線を向け安全確認をする。
- ◆体調不良・ワクチン接種後・入所間もない児童は、特に気を付け、保育士が
座位する一番傍に就寝させる。
- ◆スタイは外し、布団が顔にかからない様にする。
- ◆保育士不在の状態にしない。

※呼吸停止等の異常が発生した場合は、救命蘇生講習内容を軸にし、各自、
各クラスで、シミュレーションしておく。

園庭・戸外遊び

- ◆玩具・遊具の出し入れの際、意識して、破損の有無を確認する。
(消毒の際、点検する⇒保育士補助)
- ◆毎朝、掃除の際、園庭内に大きな石、長い木枝、玩具の破片等が落ちていないか、毛虫がいないかを確認する。(スロープ横の桜の木に毛虫がつく)
- ◆砂・石を口に入れる。玩具を手を持ったまま走る。砂・石を投げる。コンビカー等遊具の上に立つ。フェンス沿いの段差のある所によじ登る。等、危険な行為に直ぐ対応出来る様、保育士は配置を考え、見守りや遊びへの誘導を行う。
- ◆コンビカー・三輪車の走行、ボール遊び、走りっこ等、多種の遊びが交差しない様、場所設定誘導を行う。
- ◆持参の虫除けスプレーで、虫刺され対策を行う。
- ◆陽射しが強い季節は、帽子着用、遮光シートを使用し陰をつくる。
およそ6月～9月の期間は、地表から50cmの位置で(目安：子ども下駄箱下から3段目)
9時台10時台の暑さ指数(WBGT)の実測を行い熱中症の防止をする。
- ◆玩具の安全性に注意し、口の中にすっぽり入ってしまう物を出していないか、見つけた場合は処分し、他の職員にアナウンスして安全確保を行う。
- ◆課業(手指の器用さを養う玩具)の提供の仕方
手先を使う遊びには、部品が外れない工夫をしたものを使用するとともに、その子どもの発達行動に合わせた物を与える。
口に入れると、誤飲・誤嚥・窒息の可能性のある大きさ(直径約4cm)、形状の玩具は提供しない。

※誤飲・誤嚥・窒息事故の誘因となる玩具の処分や見直しを行った。(2022年度)

水遊び

【保育所における感染症ガイドラインにおいて“排泄が自立していない乳幼児には、個別のタライ等を用いてプール遊びを行い、他者と水を共有しないよう配慮する”という文面から、2019年よりため水遊びは中止とする】

- ◆天候・気温・暑さ指数(WBGT)の確認をして、遮光シートで陰をつくり水遊びの有無を決定し、準備をする。
- ◆子どもからは、絶対に目を離さない。遊びの場を離れる時は、保育士同士声をかけ補助し合う。保育士の配置を指示し合う。
- ◆水遊びの水を飲まない様、注意し遊びに誘導する。
- ◆水で滑りやすくなるウッドデッキ、他での転倒に注意する。
- ◆長時間直射日光に当たる環境を避ける。水遊びの時間も30分以内とする。
- ◆水遊び玩具についても、出し入れの際に意識して、破損の確認を行う。
- ◆タライに水を溜め、子どもが汲み出して遊ぶ際には、タライの中へ頭から転落して溺水しないよう、必ず側に保育士は配置しておく。
- ◆片付け時、タライに水を溜めて片付けを行う時には、遊びの時と同様に必ず、タライの側に保育士は配置し、無理である場合には、タライの水を空にして、溺れる危険リスクを除去する。
- ◆ウッドデッキが熱くなるので、バスマットを敷いて足裏の火傷に注意する。
- ◆衣服の着脱は入室後行う。

※職員体制に余裕がない時には、水遊びを中止する。

食事

- ◆ ゆっくり落ち着いて食べる事が出来る様、子どもの意思に合ったタイミングで与える。
- ◆ 子どもの口に合った量で与える。(一回で多くの量を詰めすぎない)。
- ◆ 食べ物を飲み込んだ事を確認する。(口の中に残っていないか注意する)。
- ◆ 汁物、お茶等の水分を適切に与える。
- ◆ 食事の提供中に驚かせない。
- ◆ 食事中に眠くなっていないか注意する。(無理に起こして食べさせない)。
- ◆ 正しく座っているか注意する。(椅子をきちんと机に寄せる)。
- ◆ 離乳食時期の乳児またはアレルギー児へは、必ず札を利用し配膳の間違いや誤食が起こらないようにする。

誤飲・窒息しやすい食物

- | | |
|---------------------------|--|
| ① 弾力のある物 | こんにゃく、練り製品、キクラゲ |
| ② なめらかな物 | メロン、熟した柿 |
| ③ 球状の物 | プチトマト、枝豆 |
| ④ 粘着性の高い物 | 白玉団子 餅 |
| ⑤ 固い物 | エビ、イカ、かたまり肉 |
| ⑥ 唾液を吸う物 | パン、ゆで卵、サツマイモ |
| ⑦ 提供を避ける食材 | プチトマト、イカ、かつお節、枝豆、ぶどう、りんご、柿、こんにゃく、糸こんにゃく
(取り除ききれない時は1 cm位に細かく刻む) |
| ⑧ 細かく切る・小さく切る等、切り方を工夫する食材 | 絹さや、かまぼこ、はんぺん、スライスきゅうり、レタス、えのき、しいたけ、しめじ、きくらげ、わかめ、ブロッコリーカリフラワー、セロリ、エビ |

園外活動 ～主に園周りの側道・看護学部玄関前歩道～

- ◆保育に園外活動を取り入れる際には、行き先・出発時、又、帰園時、責任者へ報告し所在を明らかにする。
- ◆園外活動時には、車が出入りする場合がある事を常に意識しておく。
- ◆園外へ散歩に出る時は、園内遊びよりも更に安全面に配慮する。
子ども自身が歩行する時に予想外の突発的な動きをとる事があるという意識を持って並行し、危険回避出来る体制でいる。
- ◆引率者は、常に道路側に付き安全に留意する。先頭・後方・中央とあらかじめ付き添う位置を決めておく。
- ◆必要に応じて引率者を追加して余裕のある人数で行う。
- ◆携帯電話は、必ず携行する。
- ◆東側の通路を歩く際には、ブロック塀側の歩行は行わない。（地震時倒壊の恐れがある為）
- ◆動物・危険物（自動車、自転車、バイク、看板等）には、触らせないように気をつける。
- ◆夏場には、熱中症対策として、帽子を着用する。
- ◆出発時・園外先・到着時には、人数確認をおこなう。園庭遊び、水遊び時も同様とする。
- ◆芝生への園外活動の際は、事前にルートや活動先の安全確認をしておく。
- ◆園外活動先に到着したら危険な物はないか見回り、安全性を確かめる。
- ◆活動先では、保育士1名は全体を見渡せる場所に立ち、誰がどこで遊んでいるのかを確認しながら状況を把握しておく。その他、保育士の配置にも気を付け子どもの動きにあわせて臨機応変に動く。
- ◆看護学部玄関前歩道へ出る際には、道路から距離をとる位置で車等の見学をする。
- ◆月齢や人数によっては無理をせず、怪我や体調不良等に備えて散歩車を使用する。
- ◆散歩車使用時には、1台に大勢が乗ると重さで散歩車を自由に操れなくなる事、又、子どもが柵より身を乗り出した際、転落へつながる事を注意する。
- ◆服装について、怪我・虫刺され防止として長袖、長ズボン等の調節を行う。